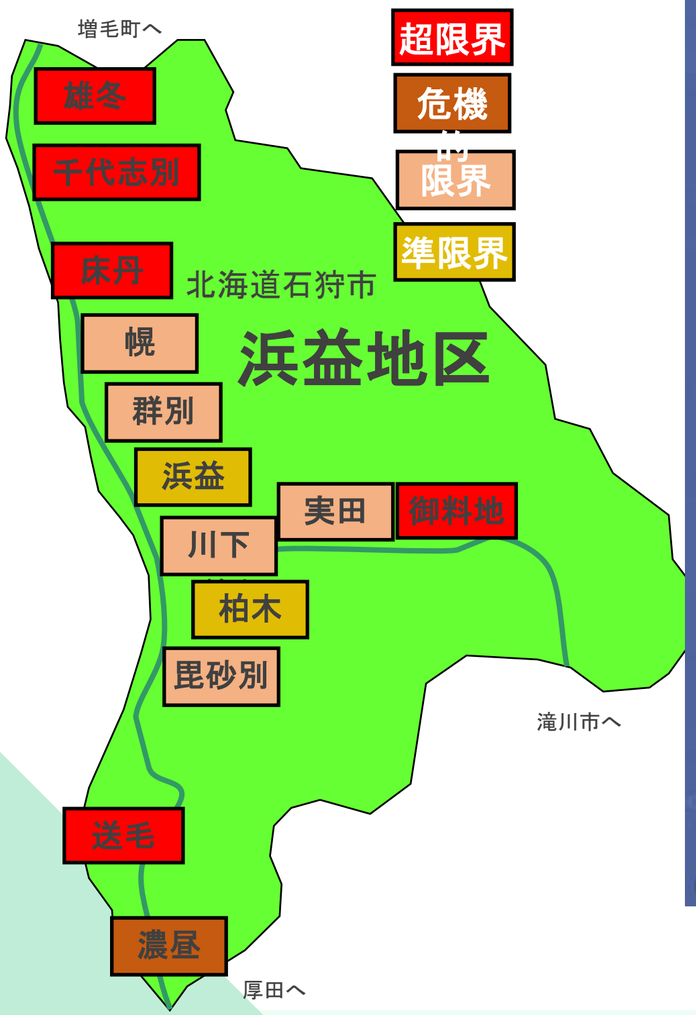
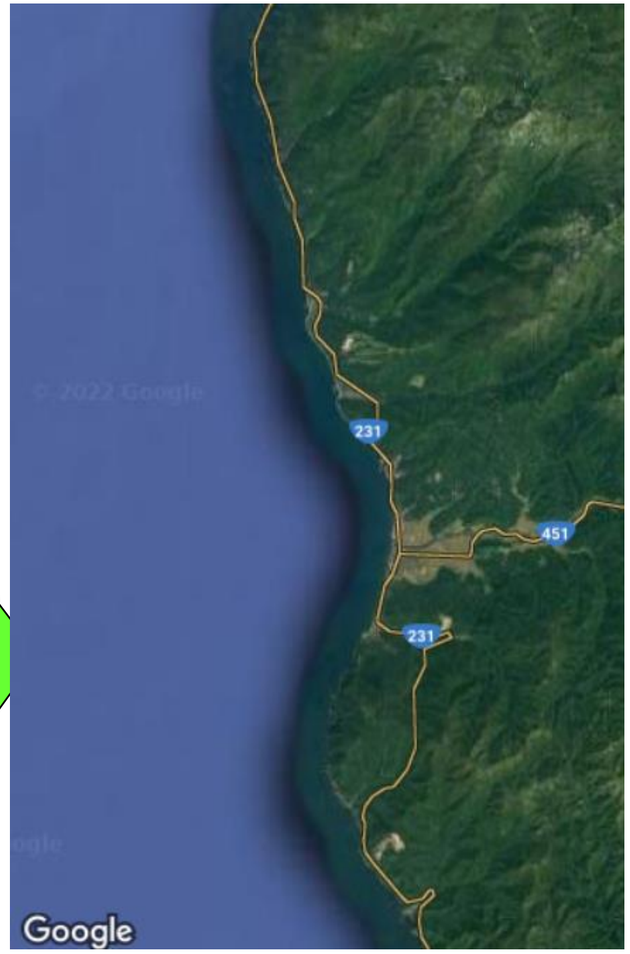
令和８年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
北海道地域循環共生圏フォーラム

浜益地域循環共生圏推進協議会「続ふかんば」

浜益の今





R8.9.30	世帯数	人口計	男	女	高齢者人口	高齢化率
浜益地区計	610	938	440	498	539	57.46%
浜益	138	198	105	93	104	52.53%
群別	71	99	34	65	66	66.67%
幌	74	106	47	59	73	68.87%
床丹	2	2	1	1	2	100.00%
千代志別	4	5	2	3	4	80.00%
雄冬	2	2	0	2	2	100.00%
川下	121	196	92	104	112	57.14%
柏木	95	161	81	80	79	49.07%
実田	51	90	40	50	44	50.00%
御料地	4	6	4	2	4	66.67%
毘砂別	36	53	24	29	33	62.26%
送毛	5	10	6	4	7	70.00%
濃昼	7	10	4	6	9	90.00%

市町村合併時（2005）：1,973人　⇒　2025年4月：989人

合併から20年で半減に！

人口は下降の一途をたどっていますが…

続けています　いっぺかだれやの会



←いっぺかだれや憲章（R6作成）





R6.11月から続く

地域の皆さんの「対話の場」。

R8年度は、5/29に第1回目（通算9回目）、

7/22に第2回目（通算10回目）を行い

次回は11/25の予定。

7/22の会は、山形県川西町

「きらりよしじまネットワーク」視察研修について

報告がありました。

※「いっぺかだれや」とは

浜益弁で「いっぱい集まろう、語ろう」の意

対話の場から導き出された方向性

浜益地域ビジョン案（2025-2035）

いっぺかだれやなまち浜益を目指して

2025.11.7 ver5

浜益の背景と課題

○人口減少と高齢化：人口約1000人，高齢化率55%を超え、地域の担い手が減少している
○地域資源の豊かさ：海、山、川に囲まれた豊かな自然と「陸の孤島」が育んできた文化や暮らしの知恵が息づいている

基本的な考え

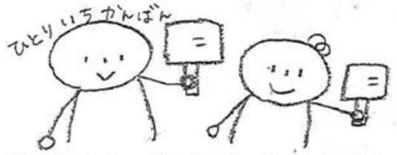
個性を活かしたひとづくりの「縦」とつながりづくりの「横」による共助のまちづくり

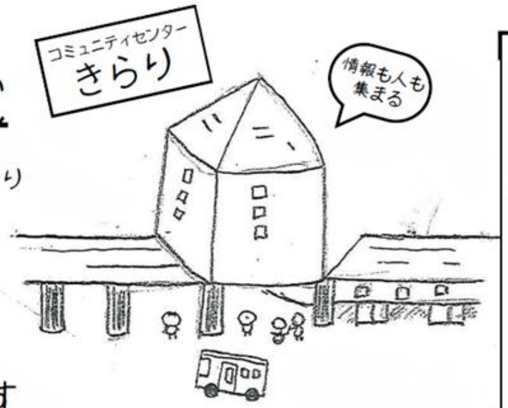
『いっぺかだれやなまち浜益』

実践の方向性

①一人一看板方式

「わたしは○○ができます」を宣言し、誰もが役割を見つけ、まちづくりに参加する機会を創出する





②つながりを作り出す「カダレテーター」

浜益に関わる人たちが集まり、つながりづくりを推進するための役割（カダレテーター）として活躍できる機会を創出する



③関係人口から担い手人口へ

まちづくり研修会に参加後、地域の役割を担う関係人口を「担い手人口」としてカウントする





目指すまちの姿

①生涯主役で誰もが役割をもつまち
②みんなで集まって解決・創出するまち
③歴史や自然が育んだ循環型の暮らしを大切にするまち

将来像

「いっぺかだれや憲章」の精神を基に、地域住民に担い手人口（関係人口）を加え、1000人程度の活力が維持されている状態を目指す。

2025年	2035年
• 地域人口：977人(R7.9)	• 地域人口：600～800人 • 担い手人口：200～400人 =1000人の活力あるまちを維持

令和7年度
対話の場や、行政内部での
意識の共有を図るための
ワークショップから生まれた、
浜益の「地域ビジョン案」。
作成は、
・地域住民
・関係人口
・行政職員　により行いました。

地域の皆さんと、
「浜益はこうしていく」を
この絵で共有しています。

地域人口＋関係人口＝1,000人を
維持したまちづくりを目指します。

陸の孤島浜益自然学校のうごき



浜益学園ヒグマ訓練のようす



令和8年4月
「陸の孤島浜益自然学校」が
設立されました。

浜益にあるたくさんの命の
つながりの中に自分の存在を
感じ、安心して生きることが
できる人が増えていくことを
目的としています。

令和8年度は、
サマースクールの受け入れや
浜益学園ヒグマ訓練の
サポートを行いました。

ジビエ加工場設立に向けて



湧別町　シカ工房　視察
R8.5.28



浜益地区でも急増している
エゾ鹿の被害。
果樹の樹皮はぎ、ロードキル
なども急増しています。
ただ獲るだけでなく、
もらった命を大事にするため
ジビエ加工場の設立を
目指しています。

旧養魚場で計画していた
「小水力発電」は、売電には
水量が足りないという結果に
なりましたが、
「加工場をまかなえるのでは」
というひらめきが生まれました。

「ネットワーキング浜益」を引き継いで



浜益100年年表
（R8.6.20）







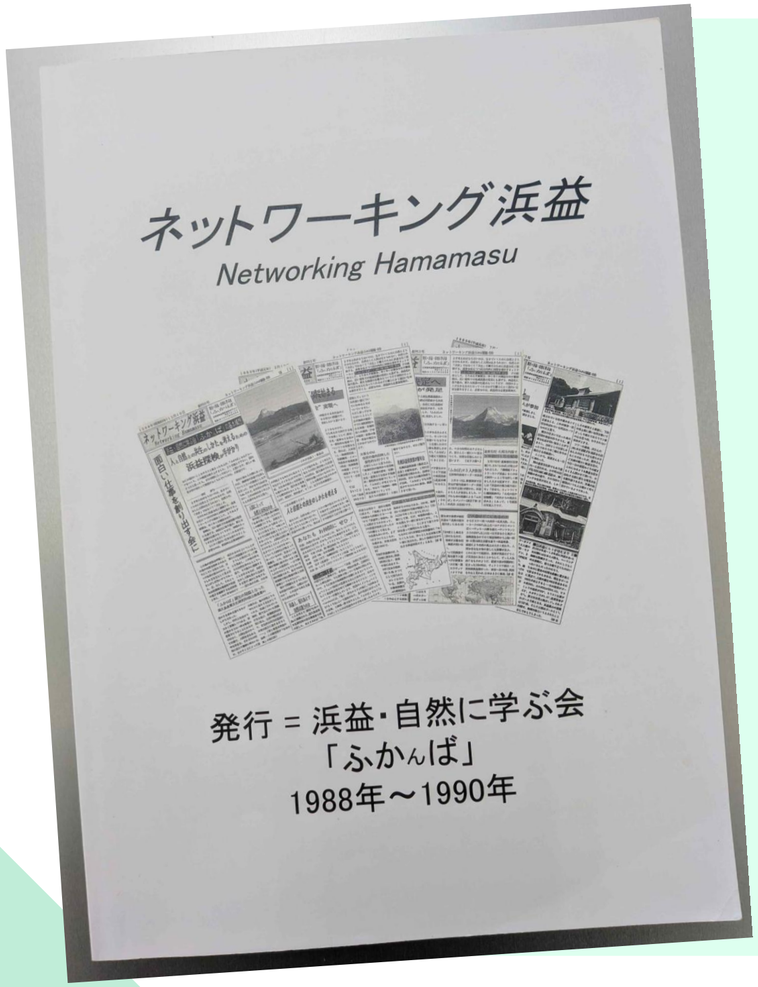
市民文化祭
（R8.11.8）

令和8年6月
浜益コミセンきらりにおいて
「100年年表」の取り組みが
実施されました。

浜益カレンダーや古い写真、
昔の住宅地図などをもとに
関係人口の若者が地域の方から
地域について学ぶ場面も
見られました。

11月には、市民文化祭（8日）でも
実施、その後も　浜益コミセンで
行われて　いる実証事業
「きらりウィーク」　内の交流サロンの
中でも実施予定です。

「ネットワーキング浜益」を引き継いで



今から30年以上前、地域の若者が浜益の自然に学び
地域に根差した仕事づくりを目的に設立された
「浜益・自然に学ぶ会ふかんば」。

当時から浜益に住む皆さんは、自分たちのまちの
底力を感じ、問題意識を持ち、仲間を増やし、
まちづくりを進めていこうという気概を持っていました。

再発見された「ふかんば」が、地域の動きが加速する
きっかけのひとつとなりました。

今、高齢化や人口減少が顕著な浜益地区ですが、
地域の若者は地域のため立ち上がり、対話を進め、
来年の春には地域運営を進める一般社団法人が設立予定です。
「みんなで一緒にやる」
「自分たちのことは自分たちでやってみる」
その精神を引き継ぎ、今後も活動していきます。